

改正後	改正前
<p>イ 子育ての知識と経験及び熱意を有し、「家庭的保育事業の実施について」（平成21年10月30日雇児発1030第2号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）の別紙「家庭的保育事業ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）の別添1の1に定める基礎研修と同等の研修を修了した者。ただし、<u>令和5</u>年3月31日までの間に修了した者とす。なお、非定期利用が中心である一時預かり事業の特性に留意し、研修内容を設定すること。</p> <p>⑥ 基幹型施設 (略)</p> <p>⑦ <u>事務経費</u> <u>子ども・子育て支援法第27条に規定する特定教育・保育施設、同法第29条に規定する特定地域型保育事業、特定教育・保育施設に該当しない幼稚園及び企業主導型保育事業と一体的に事業を実施している施設を除く事業所において、事務経費への対応として事務職員の配置等や賃貸物件における賃借料等に係る経費を必要とする事業所に対し、別に定める加算を適用する。</u></p> <p>(2) 幼稚園型Ⅰ ((3) を除く) ① ~ ④ (略)</p>	<p>び5(3)イ(イ)に定める「一時預かり事業」又は「地域型保育」の専門研修を修了した者。</p> <p>イ 子育ての知識と経験及び熱意を有し、「家庭的保育事業の実施について」（平成21年10月30日雇児発1030第2号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）の別紙「家庭的保育事業ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）の別添1の1に定める基礎研修と同等の研修を修了した者。ただし、<u>平成32</u>年3月31日までの間に修了した者とす。なお、非定期利用が中心である一時預かり事業の特性に留意し、研修内容を設定すること。</p> <p>⑥ 基幹型施設 土曜日、日曜日、国民の祝日等の開所及び1日9時間以上の開所を行う施設について、基幹型施設とすることができる。</p> <p><u>新規</u></p> <p>(2) 幼稚園型Ⅰ ((3) を除く) ① 実施場所 幼稚園又は認定こども園（以下「幼稚園等」という。）で実施すること。 ② 対象児童 主として、幼稚園等に在籍する満3歳以上の幼児で、教育時間の前後又は長期休業日等に当該幼稚園等において一時的に保護を受ける者。 ③ 設備基準及び教育・保育の内容 規則第36条の35第2号イ、二及びホに定める設備及び教育・保育の内容に関する基準を遵守すること。 ④ 職員の配置 規則第36条の35第2号ロ（附則第56条第1項において読替え）及びハに基づき、幼児の年齢及び人数に応じて当該幼児の処遇を行う者（以下「教育・保育従事者」という。）を配置し、そのうち保育士又は</p>

改正後	改正前
<p>⑤ 研修 4(2)④アの「市町村長等が行う研修を修了した者」は、以下の者とすること。 ア (略)</p> <p>イ 子育ての知識と経験及び熱意を有し、ガイドラインの別添1の1に定める基礎研修と同等の研修を修了した者。ただし、令和5年3月31日までの間に修了した者とす。なお、非定期利用が中心である一時預かり事業の特性に留意し、研修内容を設定すること。</p>	<p>幼稚園教諭普通免許状所有者を1/2以上とすること(ただし、当分の間の措置として1/3以上とすること可)。当該教育・保育従事者の数は2名を下ることはできないこと。ただし、幼稚園等と一体的に事業を実施し、当該幼稚園等の職員(保育士又は幼稚園教諭免許状所有者に限る。)による支援を受けられる場合には、保育士又は幼稚園教諭普通免許状所有者1名で処遇ができる乳幼児数の範囲内において、教育・保育従事者を保育士又は幼稚園教諭普通免許状所有者1名とすることができると。</p> <p>また、保育士又は幼稚園免許状所有者以外の教育・保育従事者の配置は、アに掲げる者又はイからエまでに掲げる者で市町村が適切と認める者とすること。なお、イからエまでに掲げる者を配置する場合には、園内研修を定期的の実施することなどにより、預かり業務に従事する上で必要な知識・技術等を十分に身につけさせる必要があること。</p> <p>ア 市町村長等が行う研修を修了した者 イ 小学校教諭普通免許状所有者 ウ 養護教諭普通免許状所有者 エ 幼稚園教諭教職課程又は保育士養成課程を履修中の学生で、幼児の心身の発達や幼児に対する教育・保育に係る基礎的な知識を習得している者と認められる者 オ 幼稚園教諭、小学校教諭又は養護教諭の普通免許状を有していた者(教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第10条第1項又は第11条第4項の規定により免許状が失効した者を除く。)</p> <p>⑤ 研修 4(2)④アの「市町村長等が行う研修を修了した者」は、以下の者とすること。 ア 「子育て支援員研修事業の実施について」の別紙「子育て支援員研修事業実施要綱」の5(3)アに定める基本研修及び5(3)イ(イ)に定める「一時預かり事業」又は「地域型保育」の専門研修を修了した者。 イ 子育ての知識と経験及び熱意を有し、ガイドラインの別添1の1に定める基礎研修と同等の研修を修了した者。ただし、平成32年3月31日までの間に修了した者とす。なお、非定期利用が中心である一時預かり事業の特性に留意し、研修内容を設定すること。</p>

改正後	改正前
<p>⑥ <u>特別な支援を要する児童</u> <u>障害児を受け入れる幼稚園等において、当該幼稚園等が実施する一時預かり事業を当該障害児が利用する際に、職員配置基準に基づく職員配置以上に教育・保育従事者を配置する場合、別に定める単価を適用する。</u> <u>なお、障害児とは、在籍する幼稚園等における教育時間内において、健康面・発達面において特別な支援を要するとして、現に都道府県又は市町村による補助事業等の対象となっている児童その他市町村が認める障害児とする。障害児であることの確認にあたっては、現に都道府県又は市町村による補助事業等の対象となつていないことを証する書類により確認できる場合には、新たな確認を行う必要はない。また新たに障害児であることの確認を行う場合であっても、身体障害者手帳等の交付の有無は問わず、医師による診断書の他、巡回支援専門員等障害に関する専門的知見を有する者による意見提出など障害の事実が把握可能な資料をもつて確認しても差し支えない。</u></p>	<p><u>新規</u></p>
<p>(3) 幼稚園型Ⅱ（当分の間の措置として、保育を必要とする2歳児の受け皿として定期的な預かりを行うものをいう。以下同じ。） (略)</p>	<p>(3) 幼稚園型Ⅱ（当分の間の措置として、保育を必要とする2歳児の受け皿として定期的な預かりを行うものをいう。以下同じ。） ① 対象自治体 「「子育て安心プラン」の実施方針について」（平成29年12月21日 子保発1221第1号）別添の1に定める市町村。 ② 実施場所 幼稚園で実施すること。 ③ 対象児童 満3歳未満の小学校就学前子ども（子ども・子育て支援法第6条第1項に規定する小学校就学前子どもをいう。）であつて、子ども・子育て支援法施行規則（平成26年内閣府令第44号）第1条で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるものとして市町村に認定を受けた2歳児（注）。なお、2歳の誕生日を迎えた時点から随時受け入れられることや、当該2歳児が3歳の誕生日を迎えた年度末まで継続して受け入れられることも妨げない。 （注）受け入れ時点だけではなく、受入れ期間中においても同施行規則第1条で定める事由に該当し続けていることを要件とする。</p>

改正後

改正前

- ④ 設備基準及び保育の内容
(2) ③に同じ。なお、保育所保育指針等や「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点について」(平成19年3月31日文科科学省初等中等教育局長通知)を踏まえ、2歳児の発達段階上の特性を踏まえた保育を行うよう留意すること。
- ⑤ 職員の配置
(2) ④に同じ。ただし、当該幼児の処遇を行う者の中には、必ず保育士を配置すること。
- ⑥ 研修
(2) ⑤に同じ。
- ⑦ 保育時間・開所時間・開所日数
児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(昭和23年厚生省令第63号)第34条の規定に準じ、保育時間は1日につき8時間を原則とすること。
- 開所時間・開所日数については、③の対象児童に対する保育を適切に提供できるよう、保護者の就労の状況等の地域の実情に応じて定めなければならないこと。
- なお、③の対象児童が幼稚園に入園した後においても、引き続き受入れが可能となるよう、保護者の就労の状況を踏まえて、適切に預かり保育を行うこと。
- ⑧ 実施方法
ア 市町村は、管内の幼稚園と相談のうえ、あらかじめ、各幼稚園における受入枠を設定すること。
イ 市町村は、3号認定を行う際に、保護者の本事業の利用希望を把握したうえで、保護者に対する情報提供等を丁寧に行うとともに、各幼稚園に対して適切な受入れの要請を行うこと。
ウ 要請を受けた各幼稚園は、保護者からの利用の申込みについて、受入枠の範囲では、正当な理由がなければ、これを拒んではならないこと。また、受入枠を超える申込みがあった場合には、保育の必要度の高い者から優先して受入れを行うこと(この場合においては、保育の必要度が同順位の者がいるときは、それらの者のうちから、各施設において公正な方法により受入れ対象者を決定することとして差し支えはないが、この方法によっても、保育の必要度に応じた順位は常に優先す

改正後	改正前
<p>(4) 余裕活用型 ① 実施場所 (略)</p> <p>② 対象児童 4(1) ②と同様とする。 ただし、特別な支援を要する児童を預かる場合の実施基準は、以下の「③実施基準」によること。</p> <p>③ 実施基準 規則第36条の35各号に定める設備及び運営に関する基準等を遵守すること。</p> <p>(5) 居宅訪問型 ① 実施場所 (略) ② 対象児童 家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児で、以下のいずれかの要件に該当すること。 ア 障害、疾病等の程度を勘案して集団保育が著しく困難であると認め</p>	<p>る)。 エ 幼稚園は、受入れ対象者が決定した段階で、市町村に報告すること (受入枠を超える申込みがあった場合には、受入れ対象者の決定方法を含めて報告すること)。</p> <p>(4) 余裕活用型 ① 実施場所 下記の施設等のうち、当該施設等に係る利用児童数が利用定員総数に満たないもの。 ア 児童福祉法(昭和22年法律第164号)第39条第1項に規定する保育所。 イ 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号)第2条第6項に規定する認定こども園。 ウ 家庭的保育事業等の設備運営基準第22条に規定する家庭的保育事業所。 エ 家庭的保育事業等の設備運営基準第28条、第31条及び第33条に規定する小規模保育事業所。 オ 家庭的保育事業等の設備運営基準第43条及び第47条に規定する事業所内保育事業所。</p> <p>新規</p> <p>② 実施基準 規則第36条の35各号に定める設備及び運営に関する基準等を遵守すること。</p> <p>(5) 居宅訪問型 ① 実施場所 利用児童の居宅において実施すること。 ② 対象児童 家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児で、以下のいずれかの要件に該当すること。 ア 障害、疾病等の程度を勘案して集団保育が著しく困難であると認め</p>

改正後	改正前
<p>られる場合。 イひとり親家庭等で、保護者が一時的に夜間及び深夜の就労等を行う場合。 ウ離島その他の地域において、保護者が一時的に就労等を行う場合。 また、当分の間、緊急一時預かりも本事業の対象とし、この場合の補助単価については別に定めることとする。</p> <p><u>さらに、特別な支援を要する児童を預かる施設に対し、(1)②の要件を満たす場合には、別に定める加算を適用する。ただし、実施基準は、以下の「③職員配置」及び「④実施要件」によること。</u></p> <p>③ 職員配置 (略)</p> <p>④ 実施要件 (略)</p> <p>(6) 地域密着Ⅱ型 ① 実施場所 (略)</p> <p>② 対象児童 主として保育所、幼稚園、認定こども園等に通っていない、又は在籍していない乳幼児とする。 また、当分の間、緊急一時預かりも本事業の対象とし、この場合の補</p>	<p>られる場合。 イひとり親家庭等で、保護者が一時的に夜間及び深夜の就労等を行う場合。 ウ離島その他の地域において、保護者が一時的に就労等を行う場合。 また、当分の間、緊急一時預かりも本事業の対象とし、この場合の補助単価については別に定めることとする。</p> <p>新規</p> <p>③ 職員配置 職員の配置は次のとおりとする。なお、家庭的保育者1名が保育することができるとする。 ア「職員の資質向上・人材確保等研修事業の実施について」(平成27年5月21日雇児発0521第19号雇用均等・児童家庭局長通知)に定める居宅訪問型保育研修を修了した保育士等を配置すること。 イ都道府県又は市町村において、アの研修の実施体制が整っていない場合には、経過措置として、家庭的保育者基礎研修を修了した保育士、家庭的保育者認定研修及び基礎研修を修了した者又はこれらの者と同以上と認められる者であって、アの研修体制が整い次第速やかに当該研修を受講し、修了することとしている者を、当該研修を修了するまでの間(概ね2年程度)配置することができることとする。</p> <p>④ 実施要件 ア利用にあたっては、市町村と協議のうえ利用の決定を行うこと。 イ一時預かり事業の他の類型を実施することができない場合に実施すること。</p> <p>(6) 地域密着Ⅱ型 ① 実施場所 地域子育て支援拠点や駅周辺等利便性の高い場所などで実施するものとする。 ② 対象児童 主として保育所、幼稚園、認定こども園等に通っていない、又は在籍していない乳幼児とする。 また、当分の間、緊急一時預かりも本事業の対象とし、この場合の補</p>

改正後	改正前
<p>助単価については別に定めることとする。</p> <p>さらに、特別な支援を要する児童を預かる施設に対し、(1) ②の要件を満たす場合には、別に定める加算を適用する。ただし、実施基準は、以下の「③設備基準及び保育の内容」及び「④職員の配置」によること。</p> <p>③～⑤ (略)</p>	<p>助単価については別に定めることとする。</p> <p><u>新規</u></p> <p>③ 設備基準及び保育の内容 規則第56条第1項、第4項及び第5項に定める設備及び保育の内容に関する基準に準じて行うこと。</p> <p>④ 職員の配置 規則第56条第2項及び第3項の規定に準じ、乳幼児の年齢及び人数に応じて当該乳幼児の処遇を行う者（以下「担当者」という。）を配置すること。 担当者の数は2名を下ることはできないこと。 また、担当者のうち保育について経験豊富な保育士を1名以上配置すること。</p> <p>⑤ 研修 保育士資格を有していない担当者の配置は、市町村が実施する研修を受講・修了することを要件とする。</p>
<p>(削除)</p>	<p>(7) 災害特例型</p> <p>① 実施場所 保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援法第30条第1項第4号に規定する特例保育を行う施設（以下「特例保育施設」という。）又は同法第43条第1項に規定する地域型保育事業所並びに地域子育て支援拠点その他の場所以で実施すること。</p> <p>② 対象児童</p> <p>ア 令和元年台風第19号に伴う災害（以下「台風第19号災害」という。）について災害救助法が適用された市町村（以下、「被災市町村」とする）に居住する世帯に属する子ども・子育て支援法第20条第4項に規定する支給認定子どもでもあって、台風第19号の影響により、避難し、在籍する同法第27条第1項に規定する特定教育・保育施設、同法第29条第3項第1号に規定する特定地域型保育事業所又は特例保育施設とは別の特定教育・保育施設等を利用する乳幼児。</p> <p>イ 被災市町村に居住する世帯に属し、主として、幼稚園等に在籍す</p>

改正後

改正前

5 留意事項
 (1) 事故の報告
 保育中に事故が生じた場合には、「特定教育・保育施設等における事故の報告等について（平成29年11月10日付府子本第912号・29初幼教第11号・子保発1110第1号・子子発1110第1号・子家発1110第1号通知）」に従い、速やかに報告すること。
 (2) 緊急一時預かり
 緊急一時預かりを実施する場合は、積極的に地域の余裕スペース等の活用を検討するとともに、本来の一時預かり事業の利用者のニーズにも十分対応できるよう、供給拡大を図ること。
 (3) 幼稚園型Ⅱ
 本事業の対象児童について、施設型給付費等を重ねて支給することがないよう留意すること。
(4) 里帰り出産等
出産や介護等により一時的に里帰りする場合において、里帰り先の市町村が適当であると判断した場合は、住所地市町村の保育所等に在籍している児童を里帰り先の市町村において、一時預かり事業の対象としても差し支えないこと。

る満3歳以上の幼児で、台風第19号災害の影響により、保護者が復旧活動等において一時的に保護を受ける幼児。
 ウ 被災市町村に居住する世帯に属し、台風第19号災害の影響により、保護者が復旧活動等を行うために、一時的な預かりが必要な子どもであつて、主として保育所、幼稚園、認定こども園等に通っていない、又は在籍していない乳幼児。
 ③ 設備基準及び保育の内容、職員の配置及び研修
ア及びイに掲げる実施場所の区分に応じ、それぞれア及びイに定める事業類型に関して（1）、（2）及び（6）において定める基準に準じて行う。
ア 幼稚園以外において実施する場合 一般型又は地域密着Ⅱ型
イ 幼稚園において実施する場合 幼稚園型Ⅰ

5 留意事項
 (1) 事故の報告
 保育中に事故が生じた場合には、「特定教育・保育施設等における事故の報告等について（平成29年11月10日付府子本第912号・29初幼教第11号・子保発1110第1号・子子発1110第1号・子家発1110第1号通知）」に従い、速やかに報告すること。
 (2) 緊急一時預かり
 緊急一時預かりを実施する場合は、積極的に地域の余裕スペース等の活用を検討するとともに、本来の一時預かり事業の利用者のニーズにも十分対応できるよう、供給拡大を図ること。
 (3) 幼稚園型Ⅱ
 本事業の対象児童について、施設型給付費等を重ねて支給することがないよう留意すること。
新規

改正後	改正前
<p>6 保護者負担 本事業の実施に必要な経費の一部を保護者負担とすることができる。 削除 また、居宅訪問型については、利用児童の居宅までの交通費を実費徴収できるとする。 また、緊急一時預かり又は幼稚園型Ⅱの場合に、保護者負担が過大とならないよう配慮すること。</p> <p>7 費用 (略)</p>	<p>6 保護者負担 本事業の実施に必要な経費の一部を保護者負担とすることができる。ただし、災害特例型については保護者負担を求めないこと。 また、居宅訪問型については、利用児童の居宅までの交通費を実費徴収できるとする。 また、緊急一時預かり又は幼稚園型Ⅱの場合に、保護者負担が過大とならないよう配慮すること。</p> <p>7 費用 本事業に要する費用の一部について、国は別に定めるところにより補助するものとする。 なお、4(1)④の注書きにより放課後児童健全育成事業と合同で保育を実施する場合には、それぞれの対象児童の保育の実施に係る費用を按分し、それぞれの事業の対象経費として補助するものとする。</p>